

この地図は二つ折りにして持ち運べます！

真ん中の点線が目印！



春の遺跡めぐりおすすめコース 京成千原線おゆみ野駅からJR鎌取駅まで、「春の道」遊歩道約2.6kmをたどるコースです。ツツジ、サクラ、ケヤキ、クスノキ、ハナモクレン、トキワサンザシ、コブシなど3月から5月に開花し、緑も映える街路樹が植えられています。

- ①～⑥
- ①上赤塚貝塚
- ②有吉北貝塚
- ③有吉南貝塚
- ④木戸作遺跡
- ⑤小金沢遺跡
- ⑥六通貝塚

**④京成千原線の高架橋**  
このあたりには「赤塚支谷」と呼ばれる谷津がありました。谷津の兩岸の台地はほぼすべて遺跡というくらい、各時代の遺跡が集中していたところです。縄文時代には有吉北貝塚の住民が、丸木舟でこの谷の川を行き来して大量の貝を運んでいました。古墳時代の始めから平安時代までは各時期の集落がありました。豊富な湧水を活かして谷津田が作られていたでしょう。

**⑥南二重堀遺跡**  
はるのみち公園で東側に曲がり、有吉小を越えたとおゆみ野を南北に貫く都市計画道路磯部茂呂町線があります。このあたりにあった南二重堀遺跡からは住居跡の中から鶺鴒(ウミウまたはカワウ)をかたどったと言われている水鳥型土製品が出土しています。とても珍しいものです。鉄挺と呼ばれる大きな鉄の板も出土しました。鉄の素材であり、5世紀に鉄利用の主導権を握ったヤマト王権とのつながりをうかがわせるものでもあります。



**⑤おゆみ野はるのみち公園**  
ここは高沢遺跡の一画でした。学園前駅付近にあった有吉遺跡とともに、古墳時代後期から平安時代、5世紀から10世紀まで長く続く集落跡でした。穂積貝・鉄鎌・火打ちがね・紡錘車などの農具や道具、銅製匙、帯金具や灰釉陶器など地域の有力者の居住を示すものなど重要な資料がたくさん見つかっています。墨書土器には「大新家」と書かれたものがいくつか見つかっています。「大」という文字がついた鉄製品は馬の肩に家の印をつける焼印です。「大新家」は牧の経営も行ってたのでしよう。「大」の焼印が押されたウマが緑の映える春の草を食べていた様子が浮かびます。



はるのみち公園 近くの桜  
墨書土器の「大新家」という文字

**⑦さくら公園**  
公園の下には、縄文中期の大きな集落跡である有吉北貝塚の集落と貝層の4分の1が保存されています。斜面には貝殻や土器を見ることができます。同じく東京湾沿岸に40数か所の大型貝塚ができましたが、そのなかで一番解明が進んでいることで知られています。大規模な斜面貝層をはぎ取ったものや、出土遺物の一部は千葉県立中央博物館に展示されています。



**ゴール！⑧JR鎌取駅**  
さくら公園から緑消防署、緑区役所の横を通り、ゆみーるの横のセンターモールからデッキに上がり、鎌取駅に至ります。今は緑区の中心となったこの付近は都川水系との分水嶺にあたり、遺跡は少ないところでした。



うら面の大マップのこのマーク⇒が目印！

## おゆみ野の巨人伝説

日本人が、古くから先住民の存在を意識していたことは、奈良時代に書かれた『常陸国風土記』によって知ることができます。そこには、ずっと昔、大櫛というところに巨人がいて、長い手をのばしてハマグリを食べ、貝が積もって丘となったとあります。この大櫛の丘は、茨城県水戸市塩崎町に現存する国指定史跡大串貝塚にあたり、大量に朽ちたという意味の「大朽」が「大櫛」となったという地名説話として記録に残されました。

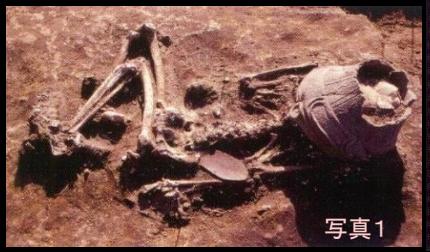


ダイダラ坊、ダイダラボッチなどと呼ばれる巨人伝説は日本各地に伝えられています。海から離れた場所にあるたくさんの貝殻に対する疑問が伝説となり、自分たちとは違う存在を認識することにつながったのでしょうか。

太田法師=だいだいぶしの地名も伝説の巨人に由来するものと考えられます。この遺跡のある台地上にくぼみがあり、これを巨人の足あとと見なしたと考えられます。近くには六通貝塚や大膳野南貝塚があることから、巨人が海まで手を伸ばして貝を食べ、それを捨てて貝殻の丘ができたという伝説が、いつの間にか忘れられてしまい、地名だけが残されたのでしょうか。開発工事で地形は失われてしまいましたが、「だいだいぶし公園」という名前が保存されたことは意義深いことだといえましょう。

### おすすめスポット！(ミニマップ中央) 有吉貝塚公園と有吉日枝神社

この小高い丘の上には縄文中期の大きな集落跡である有吉南貝塚の大半が保存されています。周囲や園路の発掘では、北側にある有吉北貝塚と同様の大型貝塚であることがわかりました。1軒の住居跡からは、頭に深鉢をかぶり腰に飾りをつけた人骨が出土しています(写真1)。腰の飾りはイルカの顎骨で作った立派なもの(写真2)と、イモガイ製の2つがあり、集落ができたころの男性リーダーだったと考えられています。学術的な価値が高いことから、平成26年に県指定有形文化財に指定されています。神社の境内では貝殻が散らばっている様子がわかります。縄文人が海から持ち運んできたものなのです。



**②そばら公園**  
ここから有吉公園までの間は「泉谷津」という幅の広い谷津がありました。名前の通り、台地から湧き出す泉の豊富な水を集めて川が流れていました。縄文時代にはこの川を使って海との間を行き来していました。現在は谷の一番奥の部分だけが残され、泉谷公園が整備されています。

**③有吉公園**  
ここは春の道とおゆみの道の分岐点にあたります。有吉公園の付近は有吉城跡という遺跡でした。ここは、江戸時代に書かれた「軍記物」と呼ばれる中世の動乱期を描いた作品に出てくる「有吉城」の推定地として知られていました。



**出発地点：①おゆみ野駅**  
駅の北側には椎名崎古墳群B支群が、南側には今台遺跡や椎名崎古墳群C支群と、古代の集落と古墳群が集中していました。椎名崎古墳群B支群の人形塚古墳は墳丘の長さが41mの前方後円墳です。周囲を二重の溝に囲まれた立派な古墳であり、「人形塚」の名前の通り、発掘調査でたくさんの埴輪が、埋葬施設からは直刀14本が見つかりました。発掘当時、地表面に引かれた地割り線が全国で初めて発見されたことから新聞で大きく取り上げられました。



ところが、30地点を発掘調査をしても中世城郭の痕跡は見つかりませんでした。一方、扇田小の先、大百池公園にある城ノ台遺跡にも「城」の地名がついており、こちらが「有吉城」ではという説もありました。

遺跡は台地ごとほぼ全面が保存されていますが、遊歩道や広場などを作る前に発掘調査をしました。調査範囲はわずかでしたが古墳時代から平安時代の住居跡が隙間なく広がっており、おゆみ野にある古代遺跡のなかでも遺構の数は一番多いかもしれません。

遺跡の名前にもなっている城に関しては、「虎口(こぐち)」や「腰曲輪(こしぐるわ)」と呼ばれる施設が見つかりましたが、本来あるべき台地上を区切る掘りや土塁などがありません。結局、このあたりに軍記物に描かれたような「有吉城」はなかったというのが発掘からわかったことなのです。

